訪問記

香港での海外インターンシップについて

中村学園大学　流通科学部
中　村　芳　生

１．はじめに

2015年８月23日（日）から26日（水）にかけて、流通科学部アジアビジネスコースの３年生８名を引率して香港における日本企業のビジネス状況等を視察してきたので、以下に報告する。

海外インターンシップは、本学流通科学部内に新たに設置されたアジアビジネスコースを履修する３年生が学内選抜された上で参加できるもので、今年度初めて実施された。

海外インターンシップ実施の目的は、中国へのゲートウェイとしての役割を担う香港の日系企業を訪問し、現地の視察や第一線で活躍するビジネスマンとの交流を通じて、参加者がダイナミックなアジアビジネスの一端に触れて刺激を与えられ、かつグローバル人材に必要な視野の拡大、異文化に対する理解などを深める契機とすることである。

今回のインターンシップ生は、アジアビジネスコース第１期生（３年生）の中から前年度末に実施した書類及び面接による選考により８名が学内選抜されたものである。

選抜された学生８名は、前学期には、インターンシップⅠを（国内）インターンシップ生とともに受講し、ビジネスマナーを学んだ。

その後、（国内）インターンシップ生は、夏季休暇中に企業訪問をして研修を実施することになるが、インターンシップⅠの期間中の事前研究として、各自、訪問先の企業研究を行うことになる。

ここで、（国内）インターンシップ生と分かれて、海外インターンシップ生は、自分たちが訪問する香港での訪問先企業や、そもそも香港とはどういう所か、香港の政治、経済の概況等を学び、夏季休暇中に３泊４日をかけて学生一人一人が自分の目で確認するという内容で前学期の事前研修を修了した。

２．香港での研修概要

全体スケジュールは、別表をご覧頂くとして、香港での研修の概要について簡単に振り返ってみたい。

８月23日（日）

まず、初日は、８月23日（日）８：30に福岡空港に集合。これからチェックインという時に、ハプニング（？）が発生した。今回の旅行全般を委託した大手旅行エージェントＡ社から見送りに来られていた担当管理職から、ダブルブッキングが発生したため、我々一行の座席がエコノミークラスからビジネスクラスにグレードアップされたとの報告を受けた。

チェックイン後、無事出国手続きを終えた一行９名は、幸運なことにビジネスラウンジで束の間の待ち時間を過ごし、定刻にキャセイパシフィック航空のCX511に搭乗した。

参加者８名（１名は中国からの留学生）中、全員が香港は初めて、５名が、海外旅行が人生初めての経験ということで、初めは全体として緊張と期待感とに包まれていたが、まずはビジネスクラスの広い座席というラッキーな贈り物に、緊張感がほぐれた様子であった。

通路を挟み、右、左ともに２席、真ん中が３席とさすがにビジネスクラスの座席はゆったりとしている。機内食も、プラスチックのプレートの中に、ナプキンでくるまれた金属製のナイ

フ、フォーク、スプーンの一式、食事内容もメインがビーフとチキンからの選択ができて、とエコノミークラスとの差が歴然とするサービス内容に全員、喜んでいるようだった。とはいえ、この時点で、ビジネスクラスとエコノミークラスの差に感心する学生は無かった様子で、この差の違いは、帰国便でエコノミー席に座った時に大いなる実感として全員が味わった筈である。

キャセイ航空（CX）香港便は、途中、台湾桃園空港で１時間弱ほどトランジットした後、香港に向けて飛び立ち、ほぼ予定どおり香港空港に到着。機内預け荷物を手荷物受取所のターンテーブルから取って、税関のグリーンレーンを通過した所で、A 社香港支店の現地ガイドさんの出迎えを受けた。日本に留学経験のある女性ガイドさんに連れられ、香港支店が購入したばかりという中型バスに乗り、一行は一路、福岡県香港事務所に向った。

＜福岡県香港事務所＞

福岡県香港事務所は、セントラル（中環）と呼ばれる香港島北部のビジネス街に位置するバンカメ（Bank of America）ビルにある。藤木所長は日曜日にもかかわらず我々一行を温かく迎えて下さり、早速、香港の事情から香港事務所の事業概要などお話し頂いた。

福岡県庁の出先として、同事務所は各種情報収集、福岡県企業への各種サポートに加え、県産食品の販路拡大に関わる事業などのほか、同事務所がとくに力を入れている事業として、香港から福岡への観光客誘致がある。

香港人観光客の特徴としてリピーターが多いとのことで、これは、福岡空港への直行便がデイリーにあることも一因とのことであった。香港観光客は、福岡の水産物や農産物を楽しみに来福するが、各種水産物やあまおうなどは香港で味わってその味の本場を求めてやってくるようだ。

香港人は、ファイスブックの利用者がとても多いとのことで、県事務所としても、イベント情報のみならず各種情報はフェイスブックを活用しているとのことであった。

どちらかというと、固い話を一時間ほど聞き、質問の時間を経た後、夕食会場に移動して、引き続き、藤木所長との意見交換会を行った。香港でも有名な北京ダックのお店とのことで、場所が変われば、話題もやわらかい話へと大きく変わり、所長を囲んで楽しいひと時を過ごした。この間にも、学生にとって小さなカルチャーショックは幾つもあったようである。

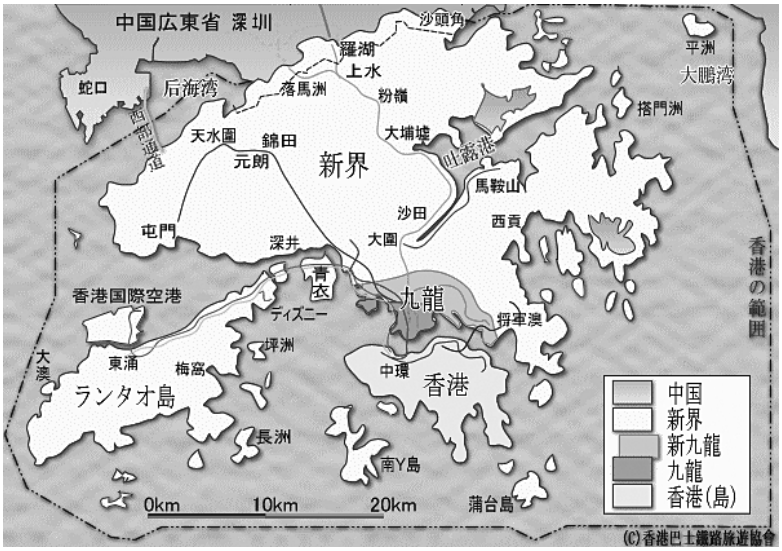
そのうちの一つとして、店での喧噪があると思う。日本では、高級なレストランであればあるほど、食事中は静かに話しながら食べ、あるいは飲むのが普通であるが、香港では、どうも違いそうだ…

あるいは、料金が高いだけで現地では中級クラスのレストランなのかもしれないが、とにかく食事中のお客さんたちが、回りを一向に気にせずに、にぎやかに歓談している。お客が立ち去った後、スタッフが円卓を片付けるに際しては、食器の音がガチャガチャと鳴り、スタッフが誤って食器を床に落としても、誰もびっくりしない。食器が割れる音にびっくりしているのは、日本人観光客くらいである。我々は、一同、“びっくりぽん”であった。

藤木所長から硬軟織り混ぜた色々な話を初日に聞くことで、学生たちの香港への心理的距離

福岡県香港事務所にて藤木所長を囲んで

香港島、九龍、新界の位置関係



（出所）HONG KONG PUBLIC TRANSPORT TOURISM ASSOCIATION

が一挙に縮まった感じであった。

８月24日（月）

＜ジェトロ香港センター＞

午前９時に日本貿易振興機構（ジェトロ）香港センターを訪問。赴任直後の伊藤所長からプレゼンをして頂いた。ジェトロは、言うまでもなく、我が国の貿易振興を総合的に行うために設立された国の機関であり、現在は独立行政法人としての法人格を与えられている。

主な業務としては、日本からの農林水産物・食品の販路拡大のための各種支援、香港企業の対日投資の支援、在香港の日系企業、日本からの進出希望企業等への各種情報提供などがある。

前任の小野村所長から１月ほど前に、８月中旬退任の連絡をメールで受け、困ったと思い、伊藤氏には赴任直後で多用なところでもあり、相談したい旨、メールしたところ、ドイツ出張中にも拘わらず、学生諸君に対して直接自分が対応したい旨の返信があり、所長からのプレゼンをお願いすることになった。

伊藤所長は、私の前職での大学の後輩でもあり、よく知る仲である。統計分析の専門家で、ASEAN 専門家としてフィリピン駐在２回の後、今回所長として香港に赴任となった。

ジェトロ伊藤所長、宇都宮職員と意見交換

学生に対するプレゼンではグローバル人材として皆さんに期待するとのことで、物事を俯瞰的にみる「鳥の目」、多角的にみる「虫の目」、そして時代の潮流を的確に捉え半歩先をみる「魚の目」が必要であるという内容で、学生たちに大いに香港で学んで欲しいと言うエールを送って頂いた。その後、入社数年目で１年間の

研修に来ている宇都宮職員から、若手女性として香港に来ての経験等について話をして頂いた。年齢も近いこともあり、皆、所長のプレゼンとは違う意味で刺激を受けた様子であった。

＜香港日本人商工会議所＞

11時前に香港日本人商工会議所に伺った。当初の予定では、柳生事務局長とお昼を挟んで13時ころまでやりとりする予定であったが、柳生氏からは、出発間際のメールで、12時から香港総商会との会議が急に入ったため、11時45分には退出するので、早めに商工会議所に来て欲しいとの連絡を受けた。

事務局長からは、ご自分のプロフィールを商社時代の後輩が作成したDVDを見ながら自己紹介して頂いた後、香港日本人商工会議所の事業概要等を伺った。1969年に当時の日本からの進出企業で設立され、50年弱の歴史を誇る在外日系企業の集まりである。現在の会員企業数は2015年７月時点で667社（正会員562社、準会員105社）。組織としては、理事会の下に５つの委員会（総務、財務、渉外、業務、中小企業）と業種別の13部会（２分科会）があり、部会では２月に一回程度の頻度で活動を行っている。業務としては、会員企業への各種情報提供、そのための統計や情報を収集し作成すること、会員相互間の親睦を図るなどのほか、香港における商工業に関する会員企業の意見をとりまとめたり、日本人商工業者に影響のある立法、その他の措置の促進または反対を行ったりなどの活動も盛んになってきている。

柳生事務局長を囲んで

最近では、日本の大学生のインターン活動の支援なども行っている由で、本学の今回の研修も、案作成の時点で柳生事務局長からは、オールジャパンで協力したい旨のエールを頂いている。

昼食は、日本人倶楽部レストランから幕の内弁当を取って頂き、西村次長から香港の市場情報についてお話を伺いながら皆で頂き、その後、近辺にある街市と呼ばれる伝統的なマーケット、中間層以上の人々が利用する現地スーパー等を案内してもらい、市場視察を行った。

その後、バスに乗り、イオン香港の本社に移動した。

午前中は、九龍からビクトリア湾の下を海底トンネルを通り香港島中環（セントラル）に入り、香港島の北部、湾仔（ワンチャイ）から銅羅湾（コーズウェイベイ）を移動したが、午後は、海底トンネルをまた九龍半島側に戻ってくることになる。

＜イオン香港＞

14時に荔枝角（ライチーコック）にあるイオン香港の本社に到着。現地合弁企業であるため、社長は香港人の女性とのことで、董事の谷島英明氏、経営策略部の新谷浩也部長から香港でのイオンの活動、香港の市場について、プレゼン頂き、その後質疑応答をした。

イオングループ初の海外拠点として同社は1970年に設立され、1995年には香港証券取引所に上場。2015年現在、香港に49店舗を構えている。ちなみに、中国全土では154店舗、さらに最近はASEANへの進出にも力を入れている。

グループとしては13カ国に広がるネットワークを有し、小売事業をはじめとして金融事業、サービス事業などを展開している。また、日本本社、中国本社、アセアン本社という三本社体制を敷くことで、より地域密着型の各種サービ

スを展開しようとしていることが窺われる。

また、香港での事業展開としては、土地が高いことから日本や中国、一部アセアン等で展開しているモール型ショッピングセンターが開発できないことなどの説明もあった。

その後、本社の近くに位置する店舗視察に新谷氏が案内してくれ、30分程度、店舗の中でどのような商品が並び、香港人が何をどのように買っているか、などを各自に目で直接確認することができた。

学生達は、日清食品の現地製ラーメンがよく売れていることや、香港からの土産物として香港製がほとんど無いこと、など、同じようなことに気付いた様子である。

イオン香港の新谷部長と

イオンの店舗視察

＜一蘭香港店＞

イオンを後にした我々一行は、福岡発祥のとんこつラーメン店として香港でも有名となっている一蘭の２号店舗、一蘭尖沙咀（チムシャーツイ）店に向った。

ここでは、事前に香港人スタッフとの意見交換の場を設定して頂くことで了解を得ていた。我々を迎えてくれた長竹香港店長は、男女２名ずつ計４名のスタッフを会議室に呼んでくれて、ざっくばらんに若者同士で意見交換を行うことができた。彼らは、赤の制服が１名、黒の制服が３名。色の違いを聞くと、赤はまだ入店したてのスタッフで経験を積み資格を取ると黒の制服に昇格する由。４名のスタッフ中には、日本への留学経験者もおり、全員流暢な日本語で応対してくれた。ここでは、香港人現地スタッフ達に入社の動機、仕事内容、今後の抱負など、学生が自由に質問させて頂き、彼らが一所懸命に応えてくれたことが非常に印象的であった。

これまでの研修は、基本的に現地日本人駐在員から各種の話を聞き、質疑応答することで香港のビジネス状況を確認させて頂いたのであるが、香港人が日本をどう見ているか、日本人の顧客と香港人の顧客の違いは何かなど、普段あまり聞くことのできないようなことも色々やり取りされていた。

彼らは、最低、中国語、広東語、英語、日本語の４カ国語を自由に操れるとのことで、学生達はびっくりするとともに、語学力の意味について考えるところがあったようだ、

交流会終了後、福岡の味を楽しみたい学生達は、店内を視察させて頂き、いわゆる「味集中カウンター」ではない「屋台」風店舗で各自、お好みで一蘭ラーメンを頂戴した。我々の到着時はまだまばらだった店内も混み始め、店の外には順番待ちの香港人達の列が出来始めていた。

一蘭を去る時に、海浜公園からの夜景が綺麗なのでぜひ、見ていくようにと勧められたこともあり、徒歩でヴィクトリアハーバーのウォー

一蘭で香港人スタッフと意見交換

ターフロント海浜公園まで行き、30分ほど、九龍半島から香港島側の夜景を楽しむことができた。これぞ、世界三大夜景の一つとしてつとに有名なヴィクトリアハーバーの「百万ドルの夜景」である。学生達は大喜びであった。

20時から「シンフォニー・オブ・ライツ」という香港島側の高層ビルのライトアップが始まり、光と音によるシンフォニーによって「百万ドルの夜景」が数倍にもプレアップされる15分を楽しめるのだが、その直前に、我々は後ろ髪を引かれる思いでバスに乗り込みホテルに向った。

ホテル到着後は、自由時間である。ホテルは、九龍半島の北に広がる新界（ニューテリトリー）地区にある沙田（シャーティン）区にある。新界地区は、香港の総面積のほぼ９割を占めるといわれ、香港のベッドタウンとして知られる地区である。その新界地区でも沙田は最も人口が多いと言われている。香港中文大学がこの沙田にあり、また近隣には高層住宅が立ち並んでいる。高層ビルの１階部分はレストランや店舗が軒を連ね、夜も遅くまで営業している。香港の庶民の生活を垣間見るには絶好の場所かもしれない。

８月25日（火）

＜香港国際空港キャセイ航空貨物ターミナル＞

西鉄國際物流には、事前に香港での物流機能の視察の手配をお願いしており、香港国際空港のキャセイパシフィック航空貨物ターミナルの視察をアレンジして頂いた。

８時半に西鉄國際物流（香港）の酒村社長とそのスタッフ３名がホテルまで出迎えに来て頂く。香港と言えば、東アジアにおける物流拠点の一つ。香港に来て、流通科学部の学生が物流機能を視察出来ないとすれば、研修の意味は半減するとの思いで、酒村社長に頼み込んで、香港空港の物流機能の一端を見せて頂くことになった。

まず、ホテルロビーで酒村社長一行と挨拶を交わした後、２階に移動して酒村社長から西鉄國際物流の企業概要をお聞きし、その後、香港空港のキャセイ航空貨物ターミナルに移動した。

香港はかつて、中国と諸外国との貿易の窓口的な存在であり香港港はアジアにおける代表的な港湾として長く存在してきたが、近年はシンガポール港、そして上海港との競争が激化していて、コンテナ取扱量では、2013年時点で上海、シンガポールに追い越され、2014年には深圳港にも追い越され、世界第４位となっている。

他方、空の玄関、香港国際空港は、未だに世界のトップクラスの空港である。ちなみに、国際空港評議会（ACI=Airport Council International）が発表した年次報告によると、空港貨物取扱量では、2012年現在、香港国際空港は401万6,126トン（前年比2.2％増）で、世界一である。参考までに、上海浦東国際空港は293万9,157トンで第３位、仁川国際空港は245万6,724トンで第４位となっている。

現地では、キャセイ航空から３名のスタッフが我々一行13名を出迎えてくれた。セキュリティーも厳しく写真撮影は原則禁止であった。まずは、空港ターミナルの模型で各階別に機能の説明をして頂く。

２名の貨物ターミナルのスタッフは、どちらも日本語ができないので、英語による説明であった。キャセイ本社から来て頂いた貨物営業開発課の曾課長は日本語が出来る方で、スタッフの

世界の港湾別コンテナ取扱個数ランキング

（単位：TEU）

順位	1980年		2014年（速報値）	
	港　湾　名	取扱量	港　湾　名	取扱量
1	ニューヨーク（米国）	1,947,000	上海（中国）	35,290,000
2	ロッテルダム（オランダ）	1,900,707	シンガポール	33,870,000
3	香港	1,464,961	深圳（中国）	24,040,000
4	神戸（日本）	1,456,048	香港（中国）	22,280,000
5	高雄（台湾）	979,015	寧波－舟山（中国）	19,430,000
6	シンガポール	917,000	釜山（韓国）	18,680,000
7	サンファン（プエルトリコ）	851,919	青島（中国）	16,620,000
8	ロングビーチ（米国）	824,900	広州（中国）	16,410,000
9	ハンブルグ（ドイツ）	783,383	ドバイ（アラブ首長国連邦）	15,250,000
10	オークランド（米国）	782,175	天津（中国）	14,050,000

※京浜港及び阪神港については表記を変更
出典：CONTAINERISATION INTERNATIONAL YEARBOOK 1982
CONTAINERISATION INTERNATIONAL, Lloyd's List より国土交通省港湾局計画課作成
（注）1．出貨と入貨（輸移出入）を合計した値である
2．実入りコンテナと空コンテナを合計した値である
3．トランシップ貨物を含む
（出典：CONTAINERISATION INTERNATIONAL March 2014）

英語による説明を適宜、日本語に翻訳して頂き、ターミナル内を１時間半かけて案内して頂いた。西鉄國際物流のスタッフも初めて見せて頂いた部分もあるようで、キャセイ航空スタッフには非常に丁寧に案内して頂いたようだ。ロジスティクスを学んだ学生にとって、この施設見学は非常に貴重な経験だったと思う。

各ポイントで興味津々に説明を聞く学生達の

キャセイ航空貨物ターミナルにて西鉄國際物流の方々と

姿に先方も応えてくれ、当初の予定時間を30分もオーバーしてしまったほどである。

＜香港ヤクルト＞

香港空港を後にした我々一行は昼食抜きの大急ぎで大埔の工業団地にあるヤクルトの工場に向った。工場で出迎えてくれたのは、秋田谷工場長と香港本社の営業幹部の森氏、川畑氏の計３名であった。

プレゼンでは、ヤクルトの誕生と企業理念等の説明、香港ヤクルトの歴史、製品の説明等を受け、その後に、工場内を見学させて頂いた。

ちなみに、ヤクルトの創業地は福岡市唐人町だそうである。

同社は常時、消費者による工場訪問を受け入れているとのことで、工場内も見学者が歩きながら見学できるように整備工夫されている。製造方法は基本的に日本と全く同じとのこと。中身は同じだが、外見は違う…香港のヤクルトは日本（65ml）より大きめの100ml で売られている。日本より熱いので、100ml が良いらしい。

現地ニーズに対応した商品である。また、健康志向の高まりに対応した新商品として25％カロリーカットのヤクルトLTも販売している。実際に商品を手にして、飲ませてもらうことで理解度が深まった。販売方法の違いでは、日本では、ヤクルトレディーの存在が有名であるが、香港ではヤクルトレディーはいない由。高層ビルの多い香港では、ビル１階の多くが商店やスーパーになっており、そこで飲めるようにすることで、ヤクルトレディーは不要になった…

また、レストラン、幼稚園、学校などへの販売も強化しているとの説明があり、テレビCMにも力を入れているとのことであった。

ヤクルト大埔工場にて

＜錦田客家村～旺角＞

ヤクルト工場を後にした我々は、帰路、大埔の近くに位置して香港にわずかに残る客家村である元朗（ユンロン）の錦田吉慶園に立ち寄り、城壁に囲まれた客家族が住む居住区を散策した。

城壁内は外から見えないので、中の住居は古めかしいものと想像していたが、実際にはそう古くはなかった。

狭い路地を皆で歩いていると一人の老人が学生達に声をかけて彼の家まで一緒に来るようにと誘われ、歩いていくと、老人は家の中から絵葉書の束を持ち出してきて、古い絵葉書を皆に１枚ずつ配りながら、これが40年前の居住区の様子だよと説明してくれた。小さなハプニングだった。優しい老人にありがとうとお礼を言い、城壁の外まで戻り、バスに乗車して一路、旺角（モンコック）へ向かう。

ここ、旺角は、九龍でもローカル色の強いショッピングエリアである。通称、金魚街と言われ、まさに熱帯魚や金魚など観賞魚を売る店や犬、猫などを売るペットショップなどが軒を連ねている地区をゆっくり散策した。そのまま歩いて行くと、生花や植木などを売る花屋さんが軒を連ねるフラワー・マーケット・ロードに行きつき、ここでもゆっくり散策をすることができた。

散策しながら、学生の中には香港人の購買行動などを観察することが出来た者もいたようである。

ゆっくり散策した後は、いよいよ夕食である。夕食時間帯としては、まだ早いのか、大きな中華レストランにお客は我々一行だけ。そのためか、予約していた料理が、円卓に乗らなくなるほどにどんどん出されて来る。最後の夕食ということもあり、皆でわいわい言いながら楽しい一時を過ごした。

８時前にはホテルに戻り、最後の夜なので、皆で近くの店舗に土産物を買いに出かける。お菓子を買おうにも香港製が中々見当たらないと皆で一緒懸命に香港製品を探す。買い物後は、アイスクリームを人数分購入して、近くの小さな公園でアイスを皆で頬張り、３日間の出来事などの話に花を咲かせて、そしてホテルの各自の部屋に戻って就寝した。

８月26日（水）

当初予定では、午前中に旺角の金魚街、花市場などを視察することになっていたが、前日夕方に前倒しで訪問してしまったので、チェックアウトをゆっくり目にした。昼食がワンタンで有名なレストランで尖沙咀（チムシャーツイ）の近くにあることもあり、香港スターの手形が埋め込まれている遊歩道アベニュー・オブ・スターズなどのある尖沙咀プロムナード散策に充

てることにした。短時間でも日焼けしてしまいそうな日差しの中、ブルース・リーの像の前で写真を取ったり、自分の知っている香港スターの手形を探したりと短時間ではあったが、楽しい時間だったようだ。

昼食は、ワンタンだった。ワンタンの大きさが日本のワンタンメンとは大違いで、大きい。短時間で昼食を済ませて、一路、香港国際空港へ向かう。途中、いつの間にか一行は食後の居眠りタイムに…

空港では、チェックイン、出国手続き、税関通過など全てスムースに行き、あとは搭乗時間を待つのみとなり、最後に30分程度だったが、残った香港ドルで最後の土産品を買ったり、両替をするための自由時間とした。この間、正直なところ、迷子にならずに時間内に一人残らず搭乗口まで戻って来れるだろうか、と内心ハラハラドキドキではあったが、その心配も杞憂であった。

帰国便は本来のエコノミークラスで、座席は狭いし、機内食はじめ各種サービスの違いなども往路との違いを感じることが出来たと思われる。

航空機に搭乗はしたものの、離陸待ちのためにかなり滑走路外で待たされ、離陸はかなり遅れてしまった。そのせいか、台湾でのトランジット時に、飛行機の外には出ることができずに、大勢のスタッフが機内清掃を行う様を見る機会に遭遇することになった。その後、短時間の間に台湾からの旅客が乗り込んで来て、そして離陸し、定刻より少し遅れるだけで22時少し前に我々の搭乗したキャセイ機は福岡空港に到着した。

空港で解散した後、佐賀から通う学生が自宅に到着したのは、翌日の零時を廻っていたが、８名全員からの安着メールの到着を確認して、今回の海外インターンシップの全行程は完了した。

３．おわりに

新設されたアジアビジネスコースで学ぶ学生達の中から優秀で積極性に富む学生を選抜して実施された第１回目の海外インターンシップ。

３泊４日という短期間であったが、８名の学生が無事に香港での研修を終えて帰国した。

彼らのレポートを見ると、「日本に閉じこもっているだけでは知り得なかった世界を見ることができた」結果、「さらに勉学に謹んでいかねばならないと実感した」との感想や、「今回海外インターンシップに参加することで、日本では得ることのできない多くの経験をし、自分の考え方や勉強に対する意識が変わった。このような機会を与えていただけたことに感謝するとともに、これからの学業や就職に向けて学んだことを活かしていきたい」との感想など、どの学生も香港での経験に大きな刺激を受け、今後の学業にも力いっぱい向かっていきたいとの強い意欲を持つことになったことがわかり、行動を共にした一人の教員として、本プログラムを実施して本当に良かったと思う。

その後、後学期に学生達と接すると、確実に彼らが一回り、二回り成長していることが実感される。とにかく、一人一人が自信にあふれているようだ。わずか、３泊４日の短い海外研修であったが、今回の研修が８名を成長させたことはほぼ間違いないだろう。

一昨年に海外インターンシップの担当を命じ

られてから、香港には事前準備のために山田教授と２度出張に出かけた。諸情報の入手にはジェトロ香港の小野村所長（当時）、内場次長に、訪問先の日系企業の選定には、香港日本人商工会議所の柳生事務局長に大変、お世話になった。全体スケジュール作成との関係でご協力頂いたことに感謝したい。

西鉄國際物流（香港）には、今春の人事異動で社長、担当ともに昨年訪問時の方とは交替されたが、現地でしっかりと引き継ぎして頂いており、香港空港の物流施設視察というリクエストにも応えて頂くことが出来、ロジスティクスを学んでいた学生にとってとても良い刺激になったことと思う。厚く御礼を申し上げたい。

その他の訪問先として、香港ヤクルト、イオン香港、一蘭香港店においても、ご多用の中、我々を温かく迎えて頂いた。それぞれの訪問先のトップの方々のご理解を頂くことで、今回の研修旅行が実施できたことと思い、重ね重ね、各社のご協力に感謝する次第である。

海外インターンシップは、ここ数年で実施する大学も増えて来ている。海外で働いてみたいと考える学生と海外の企業と橋渡しをする組織として学生組織アイセック・ジャパン（AIESEK: Association Internationale des Etudiants en Sciences Economiques et Commerciales）の活動が比較的良く知られているが、経済産業省の外郭団体である JODC（Japan Overseas Development Cooperation: 海外貿易開発協会）も海外の日系企業を受入れ企業として日本国内の学生を派遣する海外インターンシップ事業を2004年以降実施しており、それが後に経済産業省の事業となり、ジェトロ及び HIDA（The Overseas Human Resourses and Industry Development Association: 一般社団法人海外産業人材育成協会）が2012年度以降受託してこれを実施するようになり、今日に至っている[i]。

2011年度までの事業は日本の大学・大学院生・高等専門学校に在籍する学生を派遣し、現地日系企業で就労体験することになっていたが、新しいプログラムは「国際即戦力育成」の冠が被せられ、事業目的に合わせて若手社会人をメインとして、現地の業界団体もしくは民間企業等に派遣し、就労体験したもらうことに主眼が置かれている。2014年度の派遣実績をみると、派遣総数191名中、若手社会人104名、学生87名となっている。

九州の大学では、北九州市立大学（以下「北九大」）が、2013年に初の海外インターンシップ事業として、シンガポール（６名）、釜山（８名）、大連（３名）の３か所に合計17名の学生を派遣した。これら学生は、グローバル人材育成の為の特別教育プログラムを履修する学生等となっている。

上記３カ所の派遣先のうち、シンガポールは三菱商事、ジェトロ、安川電気、IHI、ヤクルトなどシンガポールで事業を展開する企業を複数訪問し、「企業のアジア展開のハブとなっており、多国籍人種が協働するシンガポールのビジネス現場を体験する」こととしている。他方、釜山と大連は、それぞれ当該地の企業で５日間のインターンシップを実施、韓国または中国でのビジネスを体験すること、となっている。

同大学のシンガポールのインターンシッププログラムは企業視察という形式で本学部のプログラムに似たものとなっている。これは、恐らくシンガポールでは就労ビザ問題との関連で就業体験が難しいためではないだろうか。

事前準備のため香港に出張時、就労体験の可能性につき、香港日本人商工会議所の柳生事務局長に伺ったところ、就労ビザの関係で、企業側の受入れが難しいとのコメントを頂いているが、シンガポールも同じような状況ではないかと思われる。

---

i　HIDA は、2013年４月に経済産業省傘下の二つの一般社団法人である JODC と AOTS（海外技術者研修協会）が統合されてできた組織。

2015年度の北九大の海外インターンシップ事業は、派遣国が欧米にも拡大され14カ国・地域に24プログラムで42人が派遣されている。このうち、シンガポールには４プログラムで５名が派遣されていて、４名が就労体験をしているが、１名は複数企業視察型となっている。

海外インターンシップという名称は、「インターンシップ」という言葉ゆえに海外での就労経験がイメージされがちである。もちろん、海外での就労は学生にとって得難い経験になることは間違いあるまい。しかし、アジアビジネスコースでこれまで学んできたことを、香港の地で実際に各企業の駐在員や現地スタッフとの交流を通して再確認することのできた今回の研修ツアーも非常に意義のあるものであったと思う。

最後に、今回の訪問先企業の関係者の皆さまに再度、御礼を申し上げて本報告を終えたい。

（訪問先の社名・氏名の敬称略）

<table>
<tr><th>区分</th><th>内　　容</th></tr>
<tr><td>事前
研修</td><td>本プログラムの趣旨理解と訪問先の地域、訪問企業に関する事前学習
必要に応じて求められた課題等</td></tr>
<tr><td>現地
研修</td><td>研修機関で与えられた業務及び課題を、責任をもって遂行する

現地日程
<table>
<tr><th>日次</th><th>月日</th><th>時刻</th><th>地区</th><th>交通機関</th><th>スケジュール</th></tr>
<tr><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">８月23日
（日）</td><td>10：45
14：55</td><td>福岡発
香港着</td><td>航空機</td><td>福岡空港集合（８：40）
キャセイ航空 CX511便にて空路、香港へ</td></tr>
<tr><td>夕刻</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">貸切バス</td><td>オリエンテーション
（スケジュール、個人のテーマ確認等）</td></tr>
<tr><td>夜</td><td>福岡県香港事務所長との懇談
（香港での九州企業の活動について）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">８月24日
（月）</td><td>９:00
11:00</td><td rowspan="2">香港島
・
九龍</td><td rowspan="2">貸切バス</td><td>ジェトロ香港訪問（香港経済・香港の占める地位について：所長のプレゼン&意見交換）
香港商工会議所訪問（日系企業の活動について：プレゼン＆意見交換）</td></tr>
<tr><td>14:00
17:00</td><td>イオン訪問（香港での消費動向について：プレゼン＆店舗視察・意見交換）
一蘭香港店訪問（香港人の消費動向等について：意見交換）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">８月25日
（火）</td><td>午前</td><td></td><td rowspan="2">貸切バス</td><td>空港・物流施設訪問（西鉄國際物流）
（香港の物流について：視察＆意見交換）</td></tr>
<tr><td>12:30</td><td>新界</td><td>ヤクルト訪問
（香港での製造・販売、中国との関係について：工場視察＆意見交換）
錦田吉慶園視察
（香港にわずかに残る客家村）経由で宿泊所へ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">８月26日
（水）</td><td>午前</td><td></td><td>貸切バス</td><td>市場調査
香港空港へ移動</td></tr>
<tr><td>14：55
20：55</td><td>香港発
福岡着</td><td>航空機</td><td>キャセイ航空 CX510便にて空路、福岡へ
福岡空港、現地解散</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事後
研修</td><td>報告書の提出、
学部内報告会での成果報告と総括
その他、必要に応じて求められた課題等</td></tr>
</table>